

第5回安城市市民協働推進会議議事録

日 時：平成30年2月22日（木）

午前9時30分～10時40分

場 所：本庁舎大会議室3階 第10会議室

出席者：委員11名（欠席者3名）

事務局（5名）地域問題研究所（1名）

市民憲章の唱和

事務局

- ・平成29年度第5回安城市市民協働推進会議を開催します。

※事務局より市民協働推進会議規則の規定により本会議が成立する旨の報告

- ・市民憲章の唱和

1. 会長あいさつ

岩井会長（あいさつ）

- ・これまで4回にわたって審議を通じて計画案を策定いただき、中身のある、将来の安城に役立つ計画原案になりました。この計画に基づいて市と市民団体が協働し、実りあるまちになっていくことを期待します。じっくりご審議していただきたい。よろしくお願いします。

2. 議題

（1）パブリックコメントの意見及びその回答について

※事務局が資料1「第2次市民協働推進計画（案）パブリックコメント意見募集結果」と資料2、資料3「資料4、資料5「第2次安城市市民協働推進計画（原案）」に基づき、第パブリックコメントに寄せられた意見への対応と計画への反映について説明

【意見等】

岩井会長

- ・今の事務局の説明に対して意見はありませんか。
- ・特に意見がないようですので、次の議題に進みます。

（2）第2次市民協働推進計画（原案）の承認について

※事務局が資料4「第2次市民協働推進計画（原案）に関するご意見」に基づき、事前に委員から出されたご意見やご質問、それに対する事務局としての回答について説明

【意見等】

岩井会長

- ・今の事務局の説明に対して意見はありませんか。
- ・特に意見がないようです。原案についてご承認いただきたいと思います。

※全会一致で計画原案を承認。

(3) 第2次市民協働推進計画（原案）の答申（案）について

※答申の文章を事務局が読み上げる形で説明。

【意見等】

岩井会長

- ・本来ならば、この場で市長に答申するということなのでしょうが、市長の都合が合わないため、2月28日に私が代表して市長に答申します。

3. その他

(1) 今後のスケジュール

2月28日（水） 市長への答申

3月15日（木） パブリックコメントの意見及びその回答の公表

(2) その他

事務局

- ・これで会議は終了ですが、会議がスムーズに進んだおかげでお時間がありますので委員の皆様から一言ずつコメントをいただきたいと思います。

加畑委員

- ・とても貴重な経験をさせていただきました。他の委員の皆さんの意見を聞いてなるほどとおもうところが多かった。また、考えさせるようなこともありました。ありがとうございました。

石原委員

- ・とても良い計画になってよかったと思います。
- ・ただ、町内会の意見で「市からの依頼事項が多すぎる」というのがありますが、多すぎる、余計なことが増えるというような印象を抱かせないような工夫がいるのではないかと。また、気持ちよく伝わる、わかりやすく伝えるようにする必要があると思います。

小森委員

- ・2点あります。1点目は、これまで会議では、他の計画の見本になるような計画にしたいという思いから意見を出せていただいていた。今の市と市民の実力からすれば、まあまあ良い計画ができたと思います。
- ・2点目は、計画はできてからがスタートで、★印のステップアップ事業の中にはハードルが高い事業もあります。行政にあれをやってほしいこれをやってほしいではなく、市民協働サポータークラブも協力させていただきますので、一緒に推進できればと思っています。

都築委員

- ・私共は、安城市に本店や支店を置く、職員も安城市内が多い市民企業です。市民活動にはこれから引き続き協力・参加したいと思っていますので、これを機会にご要望があれば出していただき、安城市と協力してまいりたいと思います。

青木委員

- ・市民活動補助金に世話になって、それをきっかけに高齢福祉課や社協とも仕事もできるようになりました。非常にお世話になった委員会でもあります。ただ、今回私自身の働きが良く

なかったので、どこかでお役に立つべく協力してまいりたいと思います。

山下委員

- ・2点ほど気になる点をお話したい。1点目は、資料1の2の説明で、アンケート結果でボランティア・NPO活動に「参加したことはなく、今後も関わるつもりがない」という無関心層への働きかけよりも「まずは、潜在的な活動へ参加したい」という方を市民活動の担い手として誘い込むことが大事であるとありましたが、是非とも潜在的な参加需要層を掘り起こしていく具体的な施策を行ってほしいと思います。
- ・もう一つは、町内会の加入率が低いのはすぐに転出してしまいう人が多いのでメリットを感じないという見方もありますが、若い人が転入してきても結婚して子どもができると転出してしまいうケースが多く、定住しないから町内会にも加入しないということ資料も第8次総計策定時に示された。定住すれば町内会に加入しようと思う人も増えるから、市全体として定住施策を進めた方がよいと思います。

草苅委員

- ・市民協働は学びが基礎であると思います。市民が学んで初めて何か動き出すことになります。学びの本拠地である生涯学習がもっと前面に出てくるような計画であってほしかったです。が、私自身力不足であったと感じています。
- ・計画ができてこれから何をすべきというかが大事で、★印のステップアップ事業をきちっと進めてこそ計画が生きてくる。地道に活動していきたいと改めて思いました。

松岡委員

- ・日々協働ということが頭の中でもやもやしています。私たちにとって協働は日常のことです。自分たち以外の他の人たちと共に何かをすることはすべて協働です。どのように対等であるべきか常に悩んで模索しています。
- ・市民活動でも専門性や公共性が求められてきていますが、誰が見ても公平であると思えるように団体の専門性を評価して協働してはいない協働もみられます。行政側ではどこまでを協働といっているか、何を協働と思っているのかわからなくなることがあります。協働とは何なのかという共通理解を持つこと、ルールがいるのではないかと思います。スタート段階、NPOを立ち上げる段階、NPOになって社会性のある活動（第3の公共としての活動）の段階など、それぞれに段階で行政がどのようなかわりを持っていくのか段階をおって整理されていると市民活動の目標も立てやすいと思います。
- ・よい計画ができてありがたいし、これが実現していくといいなと思います。他人事ではなく自分事と捉えて安城市のために力を尽くしていきたいと思います。

野上委員

- ・この計画が着実に地域の課題解決になっていくことを期待しています。

今井委員

- ・立派な計画ができてよかった。KPIも示されて推進していこうとしていくようになっているので良い。社会貢献に参加している社員はあまり多くないのが実情。ボランティア活動への参加を促していくのはなかなか難しい。それが実現できるよう会社としても協力していきたいです。

岩井会長

- ・すばらしい計画ができてよかった多くの委員におっしゃっていただけてよかったと思います。
しかしながら、仏をつくって魂を入れないというのではよくない。この計画が市民や市職員に十分に周知されて一緒になって住みよい安城市をつくっていきいきたいと思っています。
周知徹底を市にお願いして私の感想としたいと思っています。

小森委員

- ・松岡さんがおっしゃっていたことは私も重要だと思います。第1次計画に先立って「協働の指針」を作成し、そこで協働を定義づけていますが、現代レベルでの指針にしていくため、検証し、見直しをしていきたいと思っています。

以上